

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100041		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームみはる1階		
所在地	福島県田村郡三春町一本松26		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年10月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生まれ育った三春町で家族や地域の方々を支えられ生活しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため家族と会えない日が続いていますが不安な時は職員が寄り添い笑顔で生活できるように、職員は入居者様一人一人に安らぎを感じて頂き穏やかな日常生活を送って頂けるように支援しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町役場の職員も運営推進会議に委員として出席しており、日頃から事業所の現況報告をし、他の委員と共に事業所の課題等をサポートしている。いつでも困ったことがあれば相談できる等、協力体制が構築されている。また、空室が出た時にはすぐに報告する等、連絡を取り合っている。  
2. 職員間のコミュニケーションがよく、連携して利用者に寄り添いながら、明るく笑顔をもって接しており、利用者は落ち着いて穏やかに過ごしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で会議で話し合い作り上げ、日々の実践につなげるようにしている。	毎年、理念の見直しを行っており、今年は、全職員で意見を出し合い新しい理念を作成した。理念は事務室に掲示しており、確認しながら日常業務にあたっており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域の回覧版を通して地区での取り組みや行事などを知らせて頂いている。	老人会の作品展に出品し利用者と見学に行ったり、事業所へはボランティアが来て演奏会が行われたり、地域の祭りでは獅子舞や子供神輿が訪れる等、地域と交流を行っていたが、現在、新型コロナ禍にあり中止をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解やどのような支援を行っているかを地区の代表者に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い事業所の取り組みについて発信しホームの課題について意見を聞き、改善し、生かせるようにしている。	地域代表・入居者代表・地域包括支援センター職員・町職員が委員になり、会議のほか事業所の行事にも参加いただく等、運営状況や利用者について理解してもらうよう取り組んでいる。委員から意見が出され、事故報告を会議に出すようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームのサービスの取り組みを伝え空室などの情報を伝えて協力を頂いている。	行政担当者が運営推進会議へ参加しており、運営状況やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。また、台風の翌日には、事業所を訪れ、被害状況を確認してくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化検討委員会においてホームでの身体拘束について話し合う機会を設け禁止の対象となる事柄を学び会議においても職員が身体拘束について理解できるようにしている。	身体的拘束等適正化委員会を3カ月に1回開催し、身体拘束チェックリストや虐待の芽チェックリストを基に、身体拘束が無い支援内容を振りかえっている。また、研修を通し職員は身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間だけとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修や勉強会を行いホーム内で虐待がないように職員同士お互いに話し合って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や日常生活自立支援事業について活用している利用者がいるためどのように支援して頂いているか職員同士勉強行いで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分な説明を行い、家族が抱えている不安や困っていることを尋ね理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が訪問した際にはいろいろな意見を聞いて運営に反映できるようにしている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握するとともに、家族等の面会時・電話連絡時に職員が積極的に意見や要望を聴くよう努めている。出された意見等は会議等で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談や会議において意見や要望を聞き早急に対応できるようにし働きやすい職場を作るようにしている。	日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。日常業務、職員会議や個別面談の中で意見を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。職員は家庭状況に応じて、勤務体制が選択出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行い職員が個々に向上心を持って働くことが出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のできることを把握し、勉強会を行い質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症拡大防止のため研修や勉強会はホームで行い管理者の意見交換の機会を設けサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調時に本人や家族との会話により困っていることを聞きどのようなサービスが必要としているかをくみ取り、本人と生活していく中で本人との関係作りが出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を取り必要なこと、望んでいることを聞きながら利用者と家族と関係を築くことが出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調を行い本人の様子を見極めどのようなサービスが必要かを入居後の生活の中で取り上げて行けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と馴染みの関係を築き暮らしを共にする家族のような関係を築いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取りながら家族とともに本人を支援していけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友達や近所の方が訪れ今までと同じ関係性を保つことが出来るように支援している。	家族等の訪問の際は、お茶を出し、居室で利用者とゆっくり懇談できるよう配慮している。現在新型コロナ禍のため、玄関先での面会となっているが、利用者の不安を解消し馴染みの関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、支え合い楽しく過ごす出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても本人・家族との関わりを大切に相談や問い合わせがあった時は対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と会話し思いや希望、意向を把握し、困難な場合は家族に尋ねるなどして把握できるように努めている。	日常ケアの中での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査を行い、一人一人の生活歴や暮らし方、生活環境の話聞きこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態によって、一人一人がどのように一日を過ごしたいかを把握し、職員がその方の状態に合わせ支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合い意見を頂き、カンファレンス会議を行い介護計画を作成している。	3か月毎にモニタリングやカンファレンスを実施し、見直しを行っている。利用者との日頃の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、全職員で意見を出し合い、家族の意見を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。利用者の心身状況等に変化があった場合は、状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日誌に日常の様子やケアの実践・結果などを記入し、情報を共有し実践を活かした介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の必要な事を理解し対応できるよう多角的に考え、サービスを提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が利用できる地域資源を把握し安全に利用できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診し、かかりつけ医との関係を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医で受診できるよう支援している。協力医は月に1回、それ以外の訪問診療医は月に2回の往診があり、かかりつけ医への通院は家族が対応しており、家族と情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している。往診結果はを家族に報告し情報が共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態や気づきを医療連携の看護師に伝え、適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際家族や病院関係者との情報交換や相談を行い、安心して治療し退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に医療関係者と家族と連絡を取り話し合い、終末期にホームでの看取りを希望する場合にチームで支援できるように取り組んでいる。	入居時に事業所の「重度化や看取り・医療連携体制」の指針を説明し、同意を得ている。また、終末期の看取り等について、事前確認書により利用者・家族の意向を確認し、重度化した際や終末期の対応についても、関係者が話し合い方針を共有しながら支援している。看取り終了後は、医師のアドバイスの下、振り返り・課題等の検討を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、急変時の対応や救命救急の訓練を行い、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常時、緊急時に備え動線の確保に努めており、定期的に避難訓練を行う事で、災害を想定してシミュレーションを行っている。	消防署指導の下、火災想定避難訓練(昼・夜間)を実施し、同法人役員が土砂災害時の対応について講話を行った。非常用備蓄として、食料品・水・簡易トイレ・保温シート等を準備している。夜間想定避難訓練の際、夜勤専任職員等の避難訓練参加は確認されなかった。町内会の役員から避難訓練への参加申し出があるが、新型コロナ禍になり実施出来ていない。	火災だけでなく、地震・風水害等、あらゆる災害を想定した避難訓練を実施し、特に夜間帯勤務職員が、利用者を避難誘導できる訓練を実施し、実体験を積むことが望まれる。また、火災等の災害時には地域の協力体制が必要とされるため、地域協力体制も早急に構築して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人なりの人格を肯定し、否定の言葉を遣わないよう注意し、適切な言葉かけを行っている。	「虐待の芽」チェックリストを活用した不適切ケアの検証と接遇研修を通して、全職員でプライバシーを損ねない言葉かけや対応について確認し、利用者の人格を尊重したケアを実践できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面で自分の意見を言えるよう支援自己決定できるようにしている。食事や食事の選択等希望が叶えられるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし一日どのように過ごしたいのか尋ねレクリエーションなどを提供し利用者との時の流れを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思に合った洋服を選んで着用したり好みの洋服で過ごし、身だしなみを整える事が出来るように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	個人のペースや食事の仕方に合わせて支援する事で、味だけでなく食事を楽しむ時間にするようにしている。	献立作成・食材調達は業者委託している。納入食材をアレンジした料理や菜園で収穫した野菜を使い、利用者の好みを反映した食事を提供している。また、誕生日祝は利用者の希望を聞き、ラーメンやおはぎ、海鮮丼等、希望に沿った食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調の把握や摂取状況により刻み、おかゆ、ミキサー食、水分などにトロミをつけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人一人の習慣や有する力を見極め、医療連携看護師や歯科衛生士の指導を仰ぎ支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記入し一人一人の排泄のパターンを把握し、その方に合った支援を行いトイレで排泄ができるようにしている。	排泄チェック表や利用者の動作・仕草等から排泄パターンを把握し、羞恥心や自尊心に配慮した声かけ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記入し一人一人の排便状況を把握し、個々に応じた運動を働きかけ主治医に相談し排便ができるように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調、良いタイミングで入浴を行い、一人一人コミュニケーションを取りながら、入浴を楽しめるように支援している。	週2回を目途に、利用者の希望や体調に応じた入浴支援を行っている。利用者が入浴を楽しめるよう会話をしたり、足浴や同法人派遣職員によるマッサージ等を実施しながら、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に合わせて休んで頂き、日中も居室で安心して休む事が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の病気について学ぶとともに服薬している薬を把握し症状の変化時に主治医から適切な指示を頂き、誤薬のないように支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換ができるようにレクリエーションなどを提供し、楽しく過ごすことが出来るように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って外出を行うように努め、外の刺激を受ける事が出来るようにしている。	日常的には、事業所周辺の散歩や長椅子に腰をおろし外気に触れるよう取り組んでいる。例年、買い物や花見・紅葉見学等、名勝地へドライブを兼ねて外出を計画していたが、本年度は新型コロナ禍の中で外出を自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力に応じてお金を使用出来るようにし、外出時などに支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族へ電話や手紙を書くなど連絡できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時清潔を保つよう掃除を行い動線を確保し、季節に合わせた飾り付けをし、室温も快適に過ごせるように管理している。	リビングは、炬燵付き畳スペースとテーブルコーナーがあり、ソファを配置して気分に応じて居場所が選べるよう配慮している。壁面には地区老人会出品の共同作品や手作りの折り鶴等が飾られ居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度管理は適切に管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では気の合う入居者同士が会話ができるように、席の配置を考え同じテーブルで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者が行動しやすいように配置を考慮し部屋の整理を行い、活動意欲が湧くように好きな物や馴染みの物などを配置している。	居室は、ベット・クローゼット・エアコン・トイレ等が備え付けられている。利用者・家族の希望で和筆筒や整理タンス・コタツ・テレビ等を持ち込み、ぬいぐるみや家族写真・職員から贈られた誕生祝色紙を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを探している入居者が分かるように、名前やしるしをつけるなどして安心して自立した生活ができるように支援している。		